

190 宗教裁判

ヨハネによる福音書 18 : 12~14、マタイ 26 : 57~58、マルコ 14 : 53~54、ルカ 22 : 54

ヨハネによる福音書 18 : 19~24、マタイ 26 : 59~66、マルコ 14 : 55~64、ルカ 22 : 66~71

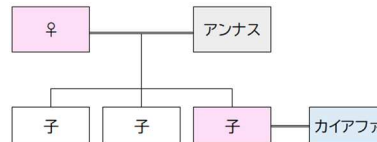
マタイによる福音書 26 : 57~68、マルコ 14 : 53~65、ルカ 22 : 54~55、63~71、ヨハネ 18 : 13~14、19~24

▶イエス、大祭司アンナスのもとに連行される (ヨハネによる福音書 18 : 12~14)

12 そこで①一隊の兵士と②千人隊長、および③ユダヤ人の下役たちは、イエスを捕らえて縛り、13 まず、(実質上、神殿の管理運営を独占していた) **アンナス**のところへ連れて行った。彼が、その年の大祭司(→大祭司はローマによって、その職を任命された) **カイアフア**のしゅうと(→舅: 配偶者の父親=妻の父親⇔姑: 配偶者の母親→しゅうとめ) だったからである。

→千人隊長は、ローマ軍の司令官で1,000人の兵を指揮した。下役は神殿を守り、エルサレムの最高法院(ユダヤ人指導者会議)が民衆を統治するのを手助けした。

→アンナス Hannas はイエスの幼少時、大祭司(AD6年にローマ帝国元老院議員でユダヤ属州総督クレオオによって大祭司に任命されて、AD15年に退位)であった。アンナスの息子たちや義理の息子(婿養子)カイアフアが後を継いだ。アンナスは辞職後も大祭司の称号を持っていた(→大祭司は終身職であるが、ローマは権力集中を防ぐため、都度、大祭司を任命した)ため、重要な案件では助言を求められた。



タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 4 / 聖句等の総数 33250 <アンナス>4個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: アンナス]
S ルカによる福音書	3:2 アンナスとカイアフアとが大祭司であったとき、神の言葉が荒野でザカリアの子ヨハネに降った。	
S ヨハネによる福音書	18:13 まず、アンナスのところへ連れて行った。彼が、その年の大祭司カイアフアのしゅうとだったからである。	
S ヨハネによる福音書	18:24 アンナスは、イエスを縛ったまま、大祭司カイアフアのもとに送った。	
S 使徒言行録	4:6 大祭司アンナスとカイアフアとヨハネとアレクサンドロと大祭司一族が集まった。	

→カイアフア Kayafahは、ユダヤの大祭司(在位: AD18年頃~44年頃)で、カイアフアは父の名で、正確には「カイアフアの子ヨセフ」である。サドカイ派で、イエスを引見する場面等で登場する(イエス殺害計画の首謀者)。大祭司であるカイアフアは地域の諸問題に関する決定権や祭司たちの統括権を持ち、ユダヤ最高法院の議長でもあり、イスラエルの宗教、政治の指導者たちの間で、絶大な力を持っていた。そして、イエスを死刑にするための裁判も指揮した。裁判の後、イエスをローマ帝国ユダヤ総督ポンティオ・ピラトに引き渡した(マタイ 27 : 2、マルコ 15 : 1、ルカ 23 : 1)。

14 一人の人間が民の代わりに死ぬ方が好都合だと、ユダヤ人たちに助言したのは、このカイアフアであった。

<ヨハネの福音書では、この間に、「ペトロ、イエスを知らないと言う」(15~18節)が挿入されている>

▶大祭司アンナス、イエスを尋問する（ヨハネによる福音書 18 : 19~24）

19 大祭司（アンナス）はイエスに①弟子のことや②教えについて尋ねた。

→アンナスの真意は、イエスと弟子たちを有罪にすることである。

20 イエスは答えられた。

「わたしは、世に向かって公然と話した。わたしはいつも、ユダヤ人が皆集まる会堂や神殿の境内で教えた。ひそかに話したことは何もない。」

→会堂：シナゴグ（synagogue）、シユナゴグ：ギリシア語、元来は「集まり」を言う。ユダヤ教の会堂。また、礼拝のためのユダヤ人の集会。

21 なぜ、わたしを尋問するのか。わたしが何を話したかは、それを聞いた人々に尋ねるがよい。その人々がわたしの話したことを知っている。」

22 イエスがこう言われると、そばにいた下役の一人が、「大祭司に向かって、そんな返事のしかたがあるか」と言って、イエスを平手で打った。

23 イエスは答えられた。

「何か悪いことをわたしが言ったのなら、その悪いところを証明しなさい。正しいことを言ったのなら、なぜわたしを打つのか。」

24 アンナスは、イエスを縛ったまま、大祭司カリアファのもとに送った。

▶最高法院で裁判を受ける（マタイによる福音書 26 : 57~68）

57 人々はイエスを捕らえると、大祭司カリアファのところへ連れて行った。そこには、律法学者たちや長老たちが集まっていた。

58 ペトロは遠く離れてイエスに従い、大祭司の屋敷の中庭まで行き、事の成り行きを見ようと、中に入って、下役たちと一緒に座っていた。

→カリアファの屋敷でサンヘドリンが召集された（→違反→：最高法院[サンヘドリン]は神殿で行わねばならない）。

→最高法院[サンヘドリン]の構成：メンバーは、71 人で構成（議長一世襲制の大祭司一と副議長が各 1 人、議員 69 人、計 71 人）された。

= 大祭司 1 人(サドカイ派) + 祭司長 24 人(サドカイ派)

+ 長老 24 人(ファリサイ派) + 律法学者 22 人(ファリサイ派)

→裁判を行うには、最低 23 人（ $70 \times 1/3 \approx 23.3$ ）の出席が条件

- ・無罪：最低 11 人の賛成が必要： $23 \times 1/2 = 11.5$ で小な方→11 人
- ・有罪：最低 12 人の賛成が必要： $23 \times 1/2 = 11.5$ で大な方→12 人

59 さて、祭司長たちと最高法院の全員は、死刑にしようとしてイエスにとって不利な偽証を求めた。

60 偽証人は何人も現れたが、（確かな）証拠は得られなかった。

最後に二人の者が来て、

61 「この男は、『神の神殿を打ち倒し、三日あれば建てることができる』と言いました」と告げた。

62 そこで、大祭司（カリアファ）は立ち上がり、イエスに言った。

「何も答えないのか、この者たちがお前に不利な証言をしているが、どうなのか。」

63 イエスは黙り続けておられた。大祭司（カイアファ）は言った。

「生ける神に誓って我々に答えよ。お前は神の子、メシアなのか。」

→メシア（ギリシア語では、「メシアス」）はヘブライ語（マシアハ）で、選ばれた者、油注がれた者の意味。神の子は、イスラエルの王に用いる称号の一つ（詩編 2 : 7）。

64 イエスは言われた。

「それは、あなたが言ったことです。しかし、わたしは言うておく。あなたたちはやがて、／人の子が全能の神の右に座り、／天の雲に乗って来るのを見る。」

→マルコによる福音書 14 : 62

イエスは言われた。「そうです（NIV/NKJV : I am→イエスの神性宣言）。あなたたちは、人の子が全能の神の右に座り、／天の雲に囲まれて来るのを見る。」

→王国の権力者は、王のすぐ右と左に座った。

65 そこで、大祭司（カイアファ）は服を引き裂きながら言った。

「神を冒瀆した。これでもまだ証人が必要だろうか。諸君は今、冒瀆の言葉を聞いた。66 どう思うか。」人々は、「死刑にすべきだ」と答えた。

→律法によれば、大祭司は悲しみを表すのに衣服まで裂くことは許されなかった（レビ記 10 : 6、21 : 10）。しかし、これは極限状況であった。大祭司は、イエスが神であると主張したことを、非常に恐ろしい罪であると考えた。自らを神と主張する者は、神の名を汚す罪であり、死刑に相当した。

→レビ記 10 : 6

モーセは、アロンとその子エルアザルとイタマルに言った。髪をほどいたり、衣服を裂いたりするな。さもないと、あなたたちまでが死を招き、更に共同体全体に神の怒りが及ぶであろう。あなたたちの兄弟であるイスラエルの家はすべて、主の火によって焼き滅ぼされたことを悲しむがよい。

→レビ記 21 : 10

同僚の祭司たちの上位に立ち、聖別の油を頭に注がれ、祭司の職に任ぜられ、そのための祭服を着る身となった者は、髪をほどいたり、衣服を裂いたりしてはならない。

67 そして、イエスの顔に唾を吐きかけ、こぶしで殴り、ある者は平手で打ちながら、

68 「メシア、お前を殴ったのはだれか。言い当ててみろ」と言った。

【一言】罰金

死刑判決を受けた者を、刑の執行前に、鞭で打ったり叩いたりしてはいけない。

- ・叩く：罰金 4 デナリオン
- ・平手打ち：罰金 200 デナリオン
- ・唾を吐きかける：罰金 400 デナリオン

【参考】 最高法院 サンヘドリン sanhedrin

ローマ帝国支配下のユダヤにおける最高裁判権を持った宗教的・政治的自治組織（ユダヤ議会）、最高律法教育機関でエルサレム神殿内に置かれた。

メンバーは、71人で構成（議長一世襲制の大祭司と副議長が各1人、議員69人、計71人）された。「最高法院」「長老会」などで新約聖書に登場する。→下記【参考】1、2参照

①モーセが神の命令によって召集した70人の長老に起源を持つとされる（民数記11：16、ユダヤ教のラビ伝承）。

→民数記11：16 主はモーセに言われた。「イスラエルの長老たちのうちから、あなたが、民の長老およびその役人として認めうる者を七十人集め、臨在の幕屋に連れて来てあなたの傍らに立たせなさい。

②権限等については、ギリシア語資料（新約聖書）とヘブライ語資料（タルムード伝承）のいずれに依拠するかによって説が異なるが、**①宗教問題を扱う部門**と**②政治問題を扱う部門**とに分れていたとする説が有力である。

③メンバーは、**①サドカイ派**（→【参考】3）を代表とするの**貴族祭司長**（祭司長は、神殿の中での祭儀、財政、警察を担当し、最高法院の中核であった）のグループ、**②ファリサイ派**（→【参考】4）を代表とする**律法学者のグループ**、**③長老**（一般人の代表者、経済的に余裕を持った年配の人で、祭司長と密接な関係を持ち、指導的立場にあった）のグループの三グループから構成されていた。

④会合は、安息日や祝祭日を除き、朝のいけにえを捧げる時（AM8時半頃？、AM9時：朝の祈り）から夕刻のいけにえを捧げる時（PM2時半頃？、PM3時：夕の祈り）に行われた。

→ユダヤでは、神殿ないし会堂での祈りが日に3度（AM9時、正午、PM3時）行われた（朝と夕の祈りは必須、正午の祈りは任意）。

⑤司法（裁判）権を行使し、刑の執行を行なうこともできた（イエスが裁判にかけられたころには、死刑宣告をする権限はローマによって剥奪されていた）。

⑥神殿祭儀の監督指導を行ない、祭司や裁判官の任命も行った。

⑦新月と閏（うるう）年の宣言、ユダヤの祝祭日を決定する権限も持っていた。

※AD70年の神殿崩壊後は各地を転々、200年頃からは、ローマ帝国の皇帝テオドシウス帝（在位：AD379～395）によって祭司政治が廃絶されるまで、ティベリアス（AD20年頃、ヘロデ大王の子ヘロデ・アンティパスにより、破壊された村の跡地に建設され、ガリラヤ地方の首都となった。アンティパスの後見人であったローマ皇帝、ティベリウスに因んでティベリアスと名付けられた。→ヨハネによる福音書6：1、23、21：1）におかれ、ローマ帝国内のユダヤ人の政治的、宗教的生活の中心となった。

【参考】 1. 四福音書にある「最高法院」「長老会」

マタイによる福音書	5:22 しかし、わたしは言うておく。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。兄弟に『ばか』と言う者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は、火の地獄に投げ込まれる。
マタイによる福音書	26:59 さて、祭司長たちと最高法院の全員は、死刑にしようとしてイエスにとって不利な偽証を求めた。
マルコによる福音書	14:55 祭司長たちと最高法院の全員は、死刑にするためイエスにとって不利な証言を求めたが、得られなかった。
マルコによる福音書	15:1 夜が明けるとすぐ、祭司長たちは、長老や律法学者たちと共に、つまり最高法院全体で相談した後、イエスを縛って引いて行き、ピラトに渡した。
ルカによる福音書	22:66 夜が明けると、民の長老会、祭司長たちや律法学者たちが集まった。そして、イエスを最高法院に連れ出して、
ヨハネによる福音書	11:47 そこで、祭司長たちとファリサイ派の人々は最高法院を召集して言った。「この男は多くのしるしを行っているが、どうすればよいか。」

【参考】2. 使徒言行録にある「最高法院」「長老会」

使徒言行録	5:21 これを聞いた使徒たちは、夜明けごろ境内に入って教え始めた。一方、大祭司とその仲間が集まり、最高法院、すなわちイスラエルの子らの長老会全体を召集し、使徒たちを引き出すために、人を牢に差し向けた。
使徒言行録	5:27 彼らが使徒たちを引いて来て最高法院の中に立たせると、大祭司が尋問した。
使徒言行録	5:41 それで使徒たちは、イエスの名のために辱めを受けるほどの者にされたことを喜び、最高法院から出て行き、
使徒言行録	6:12 また、民衆、長老たち、律法学者たちを扇動して、ステファノを襲って捕らえ、最高法院に引いて行った。
使徒言行録	6:15 最高法院の席に着いていた者は皆、ステファノに注目したが、その顔はさながら天使の顔のように見えた。
使徒言行録	22:5 このことについては、大祭司も長老会全体も、わたしのために証言してくれます。実は、この人たちからダマスコにいる同志にあてた手紙までもらい、その地にいる者たちを縛り上げ、エルサレムへ連行して処罰するために出かけて行ったのです。」
使徒言行録	22:30 翌日、千人隊長は、なぜパウロがユダヤ人から訴えられているのか、確かなことを知りたいと思い、彼の鎖を外した。そして、祭司長たちと最高法院全体の召集を命じ、パウロを連れ出して彼らの前に立たせた。
使徒言行録	23:1 そこで、パウロは最高法院の議員たちを見つめて言った。「兄弟たち、わたしは今日に至るまで、あくまでも良心に従って神の前で生きてきました。」
使徒言行録	23:7 パウロがこう言ったので、ファリサイ派とサドカイ派との間に論争が生じ、最高法院は分裂した。
使徒言行録	23:15 ですから今、パウロについてもっと詳しく調べるという口実を設けて、彼をあなたがたのところへ連れて来るように、最高法院と組んで千人隊長に願い出てください。わたしたちは、彼がここへ来る前に殺してしまう手はずを整えています。」
使徒言行録	23:20 若者は言った。「ユダヤ人たちは、パウロのことをもっと詳しく調べるという口実で、明日パウロを最高法院に連れて来るようにと、あなたに願い出ることになっています。」
使徒言行録	23:28 そして、告発されている理由を知ろうとして、最高法院に連行しました。
使徒言行録	24:20 さもなければ、ここにいる人たち自身が、最高法院に出頭していた私にどんな不正を見つけたか、今言うべきです。

【参考】3. 富裕層の支持が多いサドカイ派 →ヘレニズム（＝ギリシア風）文化に対して柔軟

サドカイ派は、その名を祭司の主流派であるツアドク（ザドク）に由来し（サムエル記下 20 : 25、列王記上 1 : 38～44）、神殿詣（神殿信仰）に重点を置き、そこで犠牲を献げることを教えた。裕福な上流社会のユダヤ人（サムエル記下 20 : 25、列王記上 1 : 39～45）＝祭司、教養のある金持ち、そして貴族に属する人々でファリサイ派と対立した。彼らはモーセ五書（トーラー）をファリサイ派のような多くのこじつけの議論や問題に陥ることなく非常にまじめに解釈した。ファリサイ派との違いは、サドカイ派は神が人々を死後によみがえらせることが律法に記されていないことから、死後の世界や復活を信じず、終末論の死後の世界に対する信仰もなかった。サドカイ派はファリサイ派と異なり、あまり人気がなく、大衆の支持がなかったが、宗教と政治の面では力があり、非常に影響力があった。

【参考】4. 貧困者に支持者の多いファリサイ派 →ヘレニズム（＝ギリシア風）文化に対して否定的

ユダヤ教の教派で、イエスの時代に最も高く評価されていたのはファリサイ派で、現代のユダヤ教の諸派もほとんどがファリサイ派に由来している。

ファリサイ派はハスモン朝^{※1}時代に形成され、死後の世界を信じ、律法を守ること、特に安息日や断食（週2回、木曜日と金曜日）、施しを行うことや清めの儀式を強調した。

律法学者（モーセ五書〈トーラー〉＝創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記＝を研究する学者）の多くがファリサイ派に属し、聖書（旧約）の独自の研究と伝承による解釈を固執、主張した。聖職者である律法学者（ラビ rabbi）を信仰の仲介者とし、ユダヤ人会堂の多くを管理していた。ファリサイ派は、律法を研究、遵守して、どのように生きるべきかについて教えていたために、民衆に尊敬されていた。ファリサイ派の名称は、「パルーシーム」＝「分離する者」あるいは「清い者」を意味するヘブライ語に由来するとされるが、正確には不明である。

ユダヤ人指導者の中には密かにイエスを信じる者もいたが、ユダヤ人会堂から追放されるのを恐れ、このことを公言しなかったし、もし、それが発覚した場合は、ユダヤ人指導者たちは、イエスを信じるようになった者をユダヤ人共同体や会堂から追放した（ヨハネによる福音書9：22）。

イエスを訪問したニコデモは最高法院に属する議員で、ファリサイ派の教師でもあった（ヨハネによる福音書3：1）。

また、ファリサイ派の人々はイエスが自分たちの立場や影響力を脅かすと考え、イエスを殺そうと企んだ（マタイによる福音書26：1～5、マルコによる福音書14：1～2、ルカによる福音書22：1～6、ヨハネによる福音書11：45～57）。

エルサレム神殿の崩壊（AD70年）後はユダヤ教の主流派（神殿に拠っていたサドカイ派は消滅）となり、会堂に集まって聖書を読み、祈りを捧げるスタイルが、ユダヤ教のスタイルとなっていった。

※1：BC 140年頃からBC 37年までユダヤの独立を維持して統治したユダヤ人王朝。BC 166年に起きたユダ・マカバイによるセレウコス朝軍への決起から約20年後に成立。フラウィウス・ヨセフスによればハスモンという名は一族の先祖、祭司マタティアの祖父の名前に由来しているといわれている。

フラウィウス・ヨセフスは、帝政ローマ期の政治家及び著述家である。AD66年に勃発したユダヤ戦争でユダヤ軍の指揮官として戦ったがローマ軍に投降し、ティトゥスの幕僚としてエルサレム陥落にいたる一部始終を目撃、後にこの顛末を記した「ユダヤ戦記」や「ユダヤ古代誌」を著した。

ヨセフスは、青年時代にサドカイ派やエッセネ派などを経て、最終的にファリサイ派を選んでいる。